



Services catalogue



Corcovado National Park, Costa Rica
World Database on Protected Areas
World Database of Key Biodiversity Areas



Borneo Birdwing
Troides andromache
Vulnerable

はじめに

生物多様性評価ツール IBAT (Integrated Biodiversity Assessment Tool) は、バードライフ・インターナショナル、国連環境計画の世界自然保全モニタリングセンター (WCMC)、国際自然保護連合 (IUCN)、コンサベーション・インターナショナルの4団体によって作成されました。

IBATは、IUCN レッドリスト、世界保護地域データベース (WDPA)、世界生物多様性重要地域データベース (WDKBA) の生物多様性に関するデータセットおよびデータレイヤーへのアクセスを提供しています。

IBAT を使うことで、ウェブ上で迅速かつ容易に生物多様性に関するレポートを作成することができます。地球規模で広範囲なデータを参照でき、生物多様性のリスクやサイト特有の情報を抽出し、IBAT レポートとして取りまとめます。IBAT レポートには、近接レポート、重要生息地に関する IFC と世界銀行の PS6/ESS6 レポート、淡水域レポート、マルチサイトレポート、STAR (種の脅威の軽減と生息地の復元に関する指標) レポートが含まれています。レポートの例ならびに一部の GIS データは、[こちら](#) からダウンロードできます。

IBAT は、[定額払いまたは都度払い](#)のアクセスが可能で、自動的に商業目的でのデータ使用ライセンスが含まれます。

IBAT は、専用の [リソースページ](#) を通じて、さまざまなチュートリアル、ガイダンス、ウェビナー等のサポートを提供しています。

IBAT の事例については、[こちら](#) から、よくあるご質問については [こちら](#) をご覧ください。その他のご質問については、以下までお問い合わせください (英語対応のみ)。

ibat@ibat-alliance.org

バードライフ・インターナショナル東京では日本語によるサポートを有償にて提供しております。以下までお問い合わせください。

Tokyo.office@birdlife.org

目次

1. The Data	IUCN レッドリスト
	<ul style="list-style-type: none">• 世界保護地域データベース• 生物多様性重要地域世界データベース• 種の脅威の軽減と生息地の復元に関する指標• IUCN レッドリストの六角グリッドと希少性を重みづけした「種の豊かさ」
2. Reports	<ul style="list-style-type: none">• 近接レポート• PS6 - ESS6 レポート• 淡水域レポート• STAR レポート• マルチサイトレポート
3. Subscriptions	

IBAT の特徴

事業等の開始時における迅速で効率的、かつ費用対効果の高い生物多様性リスクのスクリーニング

標準化された信頼性の高い生物多様性データへのアクセス

企業や世界の環境目標に沿った活動の特定

環境デューデリジェンスのためのレポートの作成

SASB 基準等への年次報告書作成に資する企業のサステナビリティレポートフォリオの作成

社内 GIS プラットフォーム用の GIS データのダウンロード

世界最大の生物多様性データネットワークへのアクセス

IBAT を使用するグローバル企業と同等の生物多様性戦略の構築

1 - The Data



Arabian Oryx
Oryx leucoryx
Vulnerable



Waved Albatross
Phoebastria irrorata
Critically Endangered

IBAT は、世界で最も信頼性の高い
生物多様性のデータを使っています



IBAT の 3 つの主要データは、さまざまな分野
で使われています。

例：

- ・ 生物多様性条約の愛知目標（目標 11 と 12）
- ・ 2030 年持続可能な開発目標（指標 14 と 15）
- ・ 生物多様性と生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）の中核指標
- ・ 生物多様性の今後の展望を含む国際的な評価や報告

IBAT で得られる国レベルの統計情報は、
[Country Profiles](#) で見ることができます。

IBAT は、常に変化する情報が正確に反映できるように、各データセットの最新版を提供しています。IBAT の定額払いによる収入は、データベースの更新と維持に毎年必要とされる 650 万米ドル超の資金に充てられています。



IUCN レッドリスト



IUCN 絶滅のおそれのある種のレッドリスト（通称「IUCN レッドリスト」）は、142,577 種*の分布、個体数、生態、脅威、生息地に関する情報、および絶滅を防ぐための保全措置の情報をまとめています。

レッドリストは過去、現在、そして予測される脅威に基づいて、種の絶滅リスクを客観的に評価するシステムです。種の評価には、[IUCN レッドリストのカテゴリーと基準](#)を用います。さらに、調査研究に基づいた科学的なデータの作成から情報の管理、専門家のレビューに至るまで、[確立されたプロセス](#)に従って行われます。

IUCN レッドリストは年間を通じて定期的に更新され、その更新期日は [こちら](#) でご覧いただけます。

IUCN レッドリストのデータは、IBAT から世界全体または 100 万 km²未満の準世界レベルでダウンロードすることができます。ダウンロードしたデータには、最新の IUCN レッドリストに掲載されている種の分布を表すデータおよびその分類情報が含まれています。

* 2022 年 1 月時点

World Database on Protected Areas

Raja Ampat
Locally Managed Marine Area
World Database on Protected Areas

世界保護地域データベース



World Database on Protected Areas

世界保護地域データベース（WDPA）は、海域および陸域の保護地域に関する最も包括的な世界的データベースです。

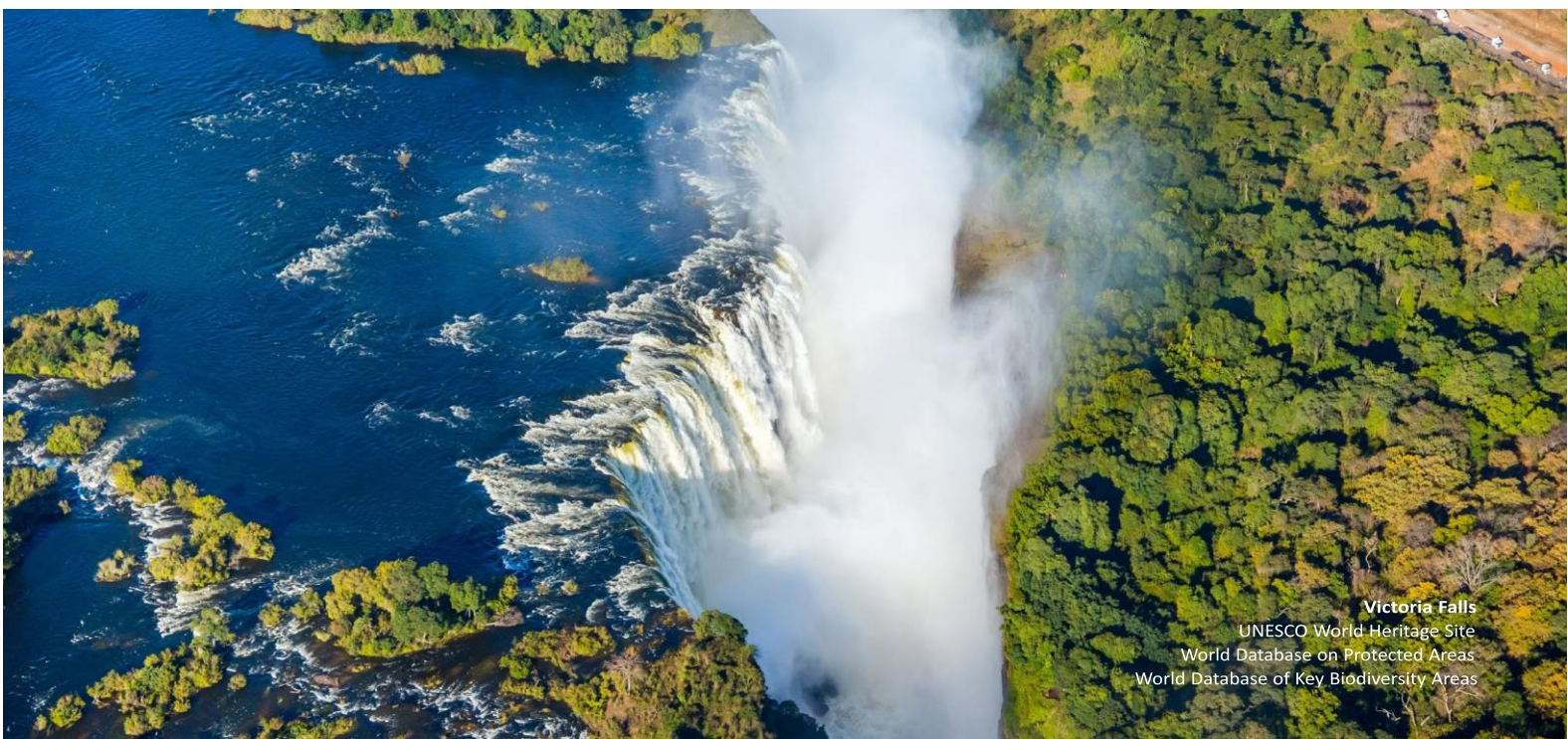
世界保護地域データベース（WDPA）は、国連環境計画（UNEP）と国際自然保護連合（IUCN）が共同で提供しています。WDPA のデータと情報は、国連の保護地域リストのベースとなっています。

WDPA におけるデータの編集と管理は、国連環境計画世界自然保全モニタリングセンター（UNEP-WCMC）が、各国政府や NGO、大学等の学術研究機関、産業界と協力して行っています。WDPA は、245 ヶ国・地域の約 500 のデータ・プロバイダーから提供されたもので、この中には、政府、国際条約事務局、地域団体、NGO、個人などが含まれます。

データ・プロバイダーによっては、WDPA に提供されたデータの使用に制限を設けており、提供されたデータを営利団体が使用することを禁止している場合もあります。IBAT を通じて提供される WDPA の情報も、これらの制約を受けます。

WDPA は IBAT で毎月、月初に更新され、2022 年 1 月現在、世界 27 万のサイトが含まれています。

保護地域に関するデータおよびその詳細情報は、[WDPA マニュアル](#)や[IUCN 管理カテゴリー](#)で見ることができます。



生物多様性重要地域世界データベース

World Database of Key Biodiversity Areas



生物多様性重要地域（KBA）は、生物の生息地として世界で最も重要な場所です。

KBA には、陸域、淡水域、海域の生態系における「生物多様性の持続に大きく貢献している場所」が含まれています。

生物多様性の危機、地理的に隔てられた生物多様性、生態系の完全性、生物学的プロセス、および代替不可能性の 5 つのカテゴリーに分類される 11 の基準のうち最低 1 つを満たしているサイトがグローバル KBA として認定されます

KBA には「絶滅ゼロ同盟サイト（ゼロアライアンスサイト）」があり、地球上で最も絶滅の危機に瀕している 1,483 種の最後の個体群を対象としています。これらの地域を保護することは、種の絶滅を防ぐために不可欠です。

生物多様性重要地域世界データベース（WDKBA）は、[KBA 参加団体](#) を代表してバードライブ・インターナショナルが管理しており、少なくとも年に 3 回更新されます。

KBA としてサイトを認定するためのプロセスと方法論に関する詳細情報は、[KBA スタンドアード](#) や関連 [ガイドライン](#)、および [ビジネスユーザーガイダンス](#) に記載されています。

種の脅威の軽減と生息地の復元に関する指標 **STAR**

「種の脅威の軽減と生息地の復元に関する指標」(STAR)は、絶滅危惧種と準絶滅危惧種の分布、脅威、絶滅リスクのデータを使って作成されます。

「種の脅威の軽減と生息地の復元に関する指標」(STAR)を使うことで、IUCN レッドリスト種のデータを使ったデータレイヤーと IBAT レポートを作成することができます。

STAR の機能を使うことによって、種に脅威をもたらす要因を軽減すること、ならびに生息地を復元する保全活動が絶滅リスクの低減に貢献する可能性を定量化することができます。

STAR は、保全活動により、持続可能な開発目標、愛知目標、国連環境経済計算システムの生物多様性指標として使用されている [レッドリスト指数\(RLI\)](#) に変化をもたらすことができるかを示しています。

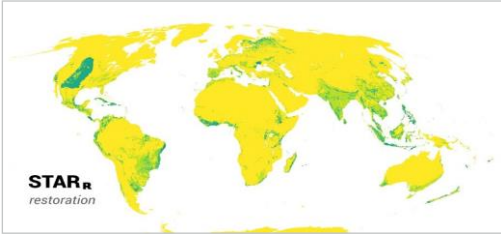
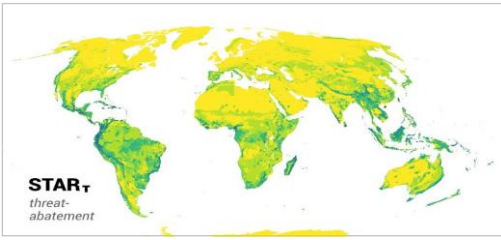
STAR は、ポスト 2020 生物多様性枠組に貢献する組織や、環境保全のために科学的根拠に基づく目標を掲げる組織にとって、非常に有益なツールです。

IBAT は STAR に関する [説明資料](#) を作成しており、STAR の計算および解釈に関する詳細については、IBAT の [ビジネスユーザーガイダンス](#) を参照してください。

現在、STAR ベータ版として、最大 30 の STAR レポートと、今後の STAR の開発に反映させるためのフィードバックを無償で提供しています。

STAR の値は以下を反映しています

- 対象とするサイトまたは行政区域に存在する絶滅危惧種および準絶滅危惧種の数とレッドリストのカテゴリー、およびその種の生息域の割合
生息域の割合が高いほど、保全活動はそこに生息する個体群に大きな影響を与えることができ、また、個体群がより脅威にさらされているほど、保全活動からより大きなリターンを得られる可能性があります。
- 脅威をもたらす各要因が種に与える影響の程度
ある要因を潜在的に減らす可能性が大きいほど、リターンの可能性は大きくなります。
- 脅威をもたらす要因が保全活動によって軽減される有効性
- 絶滅が危惧される種の脅威を、その種が「低懸念 (LC)」とされるまで減らす可能性を示しています。ある地域において、すべての種が「低懸念」であれば、STAR の値は 0 となります。





Capitol Reef National Park
World Database on Protected Areas

IUCN レッドリストの六角グリッドと 希少性を重みづけした「種の豊かさ」

IUCN レッドリスト六角グリッド*

複雑な計算が求められるデータセットを、地球規模で一連の六角形に凝縮したデータレイヤーです。各 10km の六角形は IUCN レッドリストの信頼区間 (50km) によりバッファされており、六角形の中心から半径 50km 以内にあるレッドリストの種を表しています。各六角形に帰属するレッドリスト種のデータは、属性テーブルに格納されている URL からアクセスできるウェブページに格納されています。

六角グリッドは、特に企業の意思決定に活用できるように、IUCN レッドリストを分かりやすく提供しています。このレイヤーの利点は、IUCN レッドリスト種を調査し、絶滅危惧度の観点から、リスクが高い可能性のある事業を掘り下げる際の、複雑な計算等避ける方法を提供することです。一方で、ダウンロード可能な CSV 機能により、ポートフォリオレベルで IUCN 絶滅危惧種のデータを引き出すことも可能です。

*こちらの機能は 2022 年にリリース予定です。

希少性に重みづけをし「種の豊かさ」を評価

種の希少性に重点を置いた多様性マップは、哺乳類、鳥類、両生類、甲殻類などの分布に対し、それぞれ 1km (30 秒角) のグリッドセルの相対的重要性を示すラスターレイヤーです。セル内の各生物種の希少性に重点を置き、その種の世界分布に対するセルの寄与として計算されます。各セル内の種別スコアは合計され、総合スコアが与えられます。

高スコアはセルが多数の種を保持していること、または、ある種の平均生息域が小さい場合に、そのセルが比較的高い生息域を占めていることを示しています。したがって、このようなセル内の種の個体群の損失は、地球規模の生物多様性（少なくとも対象の分類群において）の損失という点で非常に重要です。希少性に重みづけをして評価をした種の豊かさは、Range-size rarity または Range-rarity とも呼ばれ、「生物多様性の重要性」の指標として利用されてきました。

IBATは、生物多様性に関する
ニーズに対応するため、
さまざまなレポートを提供
しています。

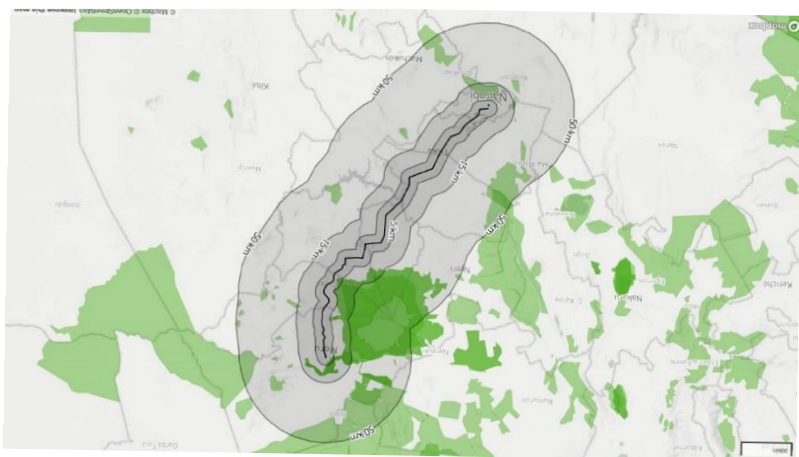
2 - Reports

近接レポート

事業で関心のある領域をスクリーニングし、1~50km の3つのバッファ距離内にある保護地域や KBA との近接性を測定します。

また、50km 圏内の絶滅危惧種に関する情報も提供されます。

このレポートは、多くの生物多様性リスクを測定するスクリーニングの出発点となるもので、都度払いに加えて、すべての IBAT 定額払いで利用ができます。



3つのバッファ領域を持つ近接レポートマップの例

近接レポートファイル

PDF レポート

各バッファの保護区と KBA の概要、および 50km のバッファの IUCN レッドリスト絶滅危惧種の概要。

CSV ファイル

選択された各バッファの保護区と KBA の完全な属性リストと 50km のバッファの IUCN レッドリスト種。

README

IBAT プラットフォームの概要、制限、免責事項、推奨される引用文献

PNG ファイル

保護地域と KBA に関連するプロジェクトの概要と選択したバッファを示す 2つの PNG ファイル。

使用事例

単一サイトのハイレベルな初期段階の生物多様性リスクスクリーニング。

活用法

事業の初期段階における生物多様性リスクを測定するための高度なスクリーニング

内容

保護地域、生物多様性重要地域 (KBA)、IUCN レッドリスト種

位置情報

ポイント、ポリゴン、またはラインフィーチャー

バッファ

ジオメトリに応じた 1km~50km のバッファを最大 3 つまで選択可

レポートの用途

- 投資先、候補地のスクリーニングや生物多様性への近接性の調査・解析
- 環境アセスメント(EIA)での使用
- EIA の結果の評価

PS6-ESS6 レポート

IFC パフォーマンススタンダード 6 /世界銀行環境・社会スタンダード 6 報告書のための初期スクリーニング。

このレポートは、IBAT ユーザーが事業で関心のある領域を調べ、重要な生息地である可能性があるかどうかを特定するものです。

1km、10km、50km のバッファ距離を設定し、IUCN の保護地域管理カテゴリー Ia、Ib、II、および「自然」または「複合」世界遺産などの保護地域の近接度を計算したものです。また、KBA も特定され、特に絶滅ゼロ同盟のサイトが考慮されています。KBA については、準絶滅危惧種、絶滅危惧種、生息域が制限された種、群れを成す種を支えている場所を考慮しています。また、50km 以内に生息する準絶滅危惧種、絶滅危惧種、生息域が制限された種に関する知見も提供しています。

レポートの結果に基づき、絶滅の危機にある生息地の可能性について、「Unclassified (不明)」、「Potential (可能性あり)」、「Likely (高い可能性)」のいずれかで表記しています。

PS6-ESS6 レポートファイル

PDF レポート 1km、10km、50km のバッファに重なる保護区と KBA、および絶滅の危機にある生息地のトリガーとなる可能性のサマリー。50km バッファ内の IUCN レッドリスト種および生息域が制限された種。	PNG ファイル 保護地域および KBA に関連するプロジェクトとバッファの概要を示す 2 つの PNG ファイル。
CSV ファイル 各バッファの保護区と KBA の完全な属性リストと 50km のバッファの IUCN レッドリスト種。	PDF レポート PS6 と ESS6 に関連する、単一サイトのハイレベルな初期段階の生物多様性リスクスクリーニング。
README IBAT プラットフォームの概要、制限、免責事項、推奨される引用文献	

活用法

IFC および世界銀行のパフォーマンススタンダードに照らした、高度な初期段階の生物多様性のリスクスクリーニング。

内容

保護地域、生物多様性重要地域 (KBA)
IUCN レッドリスト種

位置情報

ポイント、ポリゴン、またはラインフィーチャー

バッファ

1km、10km、50km で予め設定

絶滅の危機にある種の生息地である可能性を示すフラグ

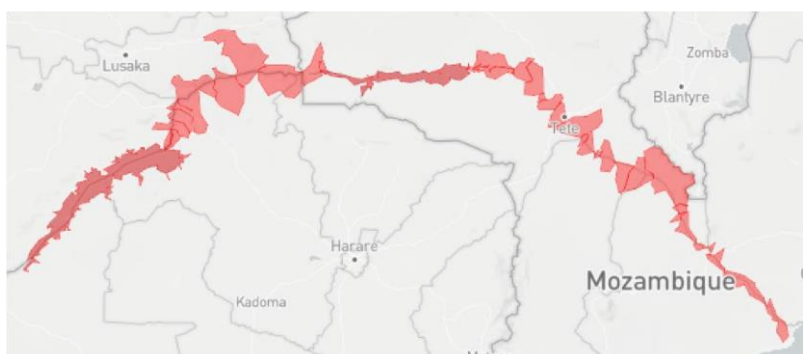
レポートの用途

- リスクおよびインパクトアセスメントに含めるリスクの範囲
- 既存のリスクとインパクトのアセスメントにおけるギャップの特定
- リスクとインパクトの更なるアセスメントのために、ポートフォリオ内のサイト間の優先順位を決定
- 重要な生息地の仮決定
- 生物多様性の専門家の関与の必要性を評価
- さらなるアセスメントや計画に資するため、追加の保全専門家や組織を特定

淡水域レポート

本報告書は、IUCN の淡水域部門による淡水に生息する十脚類、魚類、軟体動物、トンボ類、植物、カメの世界的分布に関するアセスメントをもとに作成されたものです。

このレポートでは、HydroBASINS レベル 8 のデータレイヤーを使用して、選択した地点の上流と下流で指定したゾーン内の淡水小流域を特定しています。このレポートでは、HydroBASINS 内に生息する淡水性の生物（移動性の生物を含む）を示すことができます。これは、淡水域特有の性質を反映したのですが、淡水域系は連結性が高いため、影響が遠くまで伝わりやすいのです。



淡水域レポートより上流水系流域の地図例

活用法

淡水域生態系に影響を及ぼす可能性のある事業の、ハイレベルな初期段階の生物多様性のリスクスクリーニング。

内容

淡水域での特定地点の上流と下流に生息する生物

位置情報

ポイント

バッファ

与えられた場所の上流と下流の 3 つのゾーンを選択する

レポートの用途

- 事業サイトおよび事業サイトとつながる流域（上流と下流）に生息する種の特定
- これらの種についての IUCN レッドリスト・カテゴリーの理解
- 淡水に生息する生物の移動パターン（回遊性）の把握

淡水域レポートファイル

PDF レポート

特定のバッファ内の特定の場所の上流と下流の流域に生息する淡水生物をまとめています。

README

IBAT プラットフォームの概要、制限、免責事項、推奨される引用文献

CSV ファイル

指定された各バッファ（正確なサイト流域も同様）の 50km のバッファの IUCN レッドリスト種

使用事例

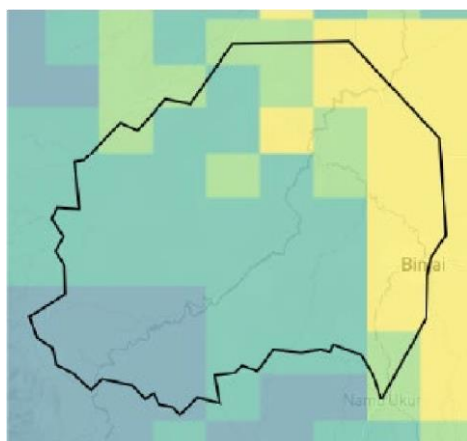
淡水生態系に影響を及ぼす可能性のある単一サイトに対するハイレベルな初期段階の生物多様性リスクスクリーニング。

STAR レポート STAR

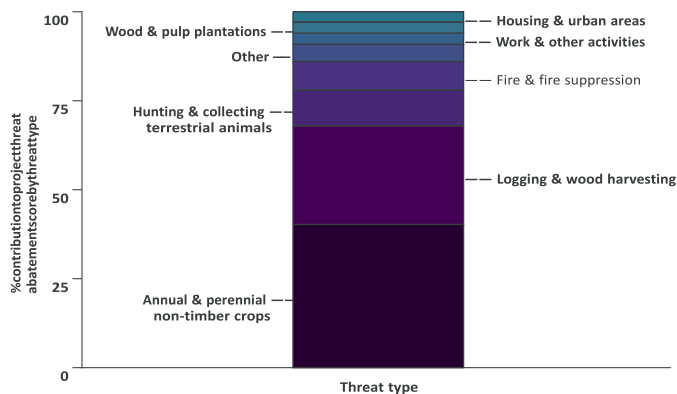
STAR（種の脅威の軽減と生息地の復元に関する指標）は、IUCN レッドリストのデータを用いて、サイト全体、または国レベルでの、種の絶滅リスク削減の可能性を推計するものです。

また、種の絶滅リスクを回避する目安を設定し、その目安に対する進捗を測定するために利用することも可能です。

STAR は、グローバルでかつ空間的に明確なデータを用いており、標準化された方法で算出されます。つまり、どのサイト、国、地域でもスコアを評価、比較、追加することができます。また、STAR スコアは、個々の脅威の影響度を示すために細分化することができます。STAR は汎用性が高く、官民間問わず様々な用途に活用できます。複数の事業や資産にまたがるリスクを特定・比較することができ、様々なスケールで科学的根拠に基づく環境保全の目標を設定するのに役立ちます。



STAR レポートのマップ例



関心領域内の STAR 脅威軽減スコアの脅威タイプ別内訳の例

活用法

生物多様性に関する行動の機会の特定、目標設定

内容

IUCN レッドリスト種（鳥類、哺乳類、両生類）

位置情報

ポイント、ポリゴン、ラインフィーチャー

レポートの用途

- 最もインパクトのある保全活動への投資機会のスクリーニング
- 事業運営に伴う保全リスクのスクリーニング
- 種の絶滅リスクに焦点を当てた科学的根拠に基づく目標設定
- 緩和行動の計画、およびオフセットに適した場所の特定
- 企業の生物多様性目標達成に向けた進捗の確認

STAR レポートファイル

PDF レポート

関心領域内の種の脅威の軽減と生息地の復元に関する値と空間的变化を示す地図。STAR の値は、脅威のタイプ別に集計されています。IBAT の STAR 説明書とビジネスユーザー向けガイダンスも PDF で収録しています。

README

IBAT の推奨使用方法と制限事項を記載した PDF「README」

Zip ファイル

脅威タイプ別、グリッドセル別の種の脅威の軽減と生息地の復元に関する値の内訳を含む 4 つの CSV ファイル。Enterprise および Enterprise Plus 加入者向けには、対象地域に存在する個々の種のリストを含む追加の CSV ファイルが提供されます。

使用事例

生物多様性へのポジティブな活動機会の特定と目標設定、および投資機会やリスクのスクリーニング。

マルチサイトレポート

「マルチサイトレポート」は、複数の事業関連サイトにおける生物多様性に関連した特長を特定し、企業の情報開示に活用することができます。

マルチサイトレポートは、企業の生物多様性リスク評価を促進し、年次のサステナビリティレポートに生物多様性がより反映されるようにするためのものです。特に、このレポートは、GRI (Global Reporting Initiative) 基準「GRI 304 : 生物多様性、およびサステナブルファイナンス開示規則」に関連しています。ユーザーが選択した各運用サイトについて、以下の生物多様性に関連した特長が提供されます。ユーザーが特定した事業サイトの半径内の保護区と KBA の数、ならびに半径 50km 以内に潜在的に存在する IUCN レッドリストの深刻な危機 (Critically Endangered)、危機 (Endangered)、危急 (Vulnerable) の数を表します。

また、「種の脅威の軽減と生息地の復元に関する指標」(STAR) に関連する合計スコアと平均スコアも提供され、ユーザーが対象サイトにおいて生物多様性保全に向けた活動を決定できるようになっています。

活用法

年次サステナビリティレポートへの生物多様性の組み込み (例 : GRI または SASB 基準に対する報告)

内容

保護地域、(生物多様性重要地域) KBA、IUCN レッドリスト種、サイトごとの STAR スコアの合計と平均値

位置情報

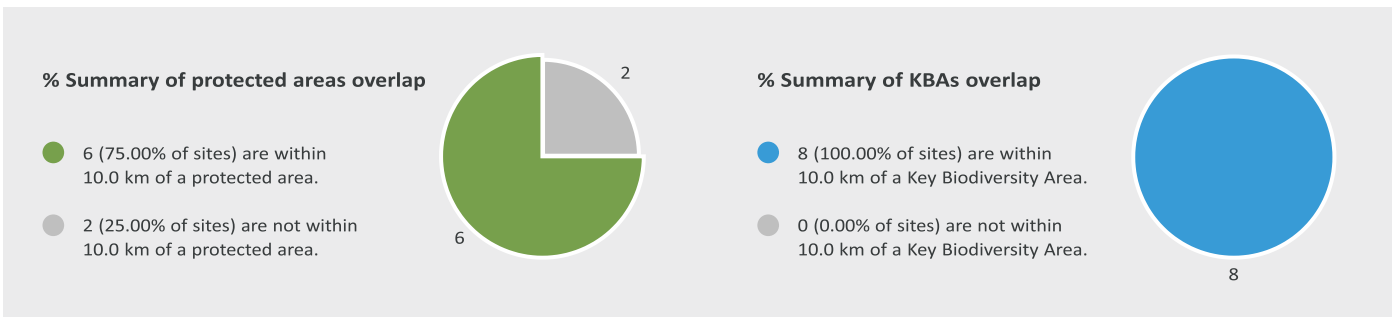
最大 1000 サイトまで、複数のポイント、ポリゴン、ラインフィーチャーを含めることが可能。より大規模な評価が必要な場合は、お問い合わせください。

バッファ

すべてのサイトに適用するバッファを 1~50km の間で 1 つ選択

レポートの用途

- 年次サステナビリティレポートやグローバルな認証基準を満たすために適した企業の生物多様性評価を実施



マルチサイトレポートの抜粋例

マルチサイトレポートファイル

PDF レポート

保護区、KBA、IUCN レッドリスト種を可視化し、サイトのポートフォリオで比較することができます。各サイトの STAR スコアの合計値と平均値も含まれます。

README

IBAT プラットフォームの概要、制限事項、免責事項、推奨される引用文献を含む README ファイルです。

CSV ファイル

各サイトの選択されたバッファ内の保護区と KBA、各サイトの IUCN レッドリストのカテゴリ数、各サイトの STAR スコアの合計値と平均値、総括重複表の 5 つのファイルに詳細を記述しています。

使用事例

年次のサステナビリティレポートに生物多様性を組み入れる (例 : GRI または SASB 基準に照らした報告)。

3 – Subscriptions



Northern Long-eared Owl
Asio otus
Least Concern

Subscriptions

FREE

\$0

- 国別プロフィールへのアクセス
- ビジュアルデータマップの表示
 - 保護区
 - KBA
 - IUCN レッドリスト種
 - STAR レイヤー (50km 解像度)
- サイトの保存

※ レポートの利用はできません。

※ 商業目的には使用できません。

「商業利用」とは、a) 商業団体（「営利目的」で活動する団体）による利用、b) 個人または非営利団体による、収益を得ることを目的とした利用を指します。分析を行うこと、またその結果を公表することはできません。

BASIC

\$5,000

USD 1年あたり

FREE のすべてに加えて

- 10 件の近接レポート
- IBAT プラットフォームとデータマップへのアクセスライセンス
- プロジェクトのアップロードと保存

PRO

\$15,000

USD 1年あたり

BASIC のすべてに加えて

- 30 件の近接レポート
- 30 件の PS6 & ESS6 レポート
- 30 件の淡水域レポート
- 3 件のマルチサイトレポート
- 100 万 km²の WDPA、WDKBA、IUCN レッドリスト GIS のダウンロード
- 10 万 km²の STAR の GIS データのダウンロード
- 地図上の STAR レイヤーの 5km 解像度へのアクセス

ENTERPRISE

\$25,000

USD 1年あたり

PRO のすべてに加えて

- 近接、PS6 & ESS6、淡水域、マルチサイトレポートが無制限
- WDPA、WDKBA、IUCN レッドリストの GIS のダウンロード無制限
- 100 万 km²の STAR の GIS データのダウンロード
- ジオデータベースのダウンロード (IUCN レッドリスト、WDPA、WDKBA のグローバル空間データのダウンロード)

ENTERPRISE PLUS

\$35,000

USD 1年あたり

ENTERPRISE のすべてに加えて

- 近接、PS6 & ESS6、淡水域、マルチサイトレポートが無制限
- WDPA、WDKBA、IUCN レッドリストの GIS データのダウンロード無制限
- IBAT のウェブサービス(APIs)へのアクセス
- IUCN レッドリストの六角形グリッドデータレイヤーへのアクセス (2022 年予定)
- IUCN レッドリストの希少性に重みづけした種の豊かさデータレイヤー
- STAR の GIS データのダウンロード

コンサルタントは、企業の IBAT サブスクリプションを追加費用なしで利用することができます。

都度払い

定額払いの一方で、コンサルタントが他の組織に代わって単発のプロジェクトスクリーニングや GIS ダウンロードを行ったり、企業自身が特別にレポートを購入したりするために、都度払いが用意されています。

GIS ダウンロード（希望するデータの総面積に基づく*）

<2,500km ²	\$1,000
2,500 - 100,000km ²	\$2,500
100,000 - 1,000,000km ²	\$5,000

レポートオプション

シングルレポート	\$750
マルチサイトレポート (GRI)	\$5,000

*コアデータセット（IUCN Red List, WDPA, WDKBA）または、派生データセット（STAR/ Rarity-weighted Species Richness）から選択

レポートタイプ

レポートの種類や GIS ファイルのダウンロード、サンプルなどの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。

ジオデータベース

- 内容 – 保護区、KBA、IUCN レッドリスト種
- 活用法 – グローバルな空間データの完成
- Enterprise または Enterprise Plus 登録者のみ利用可能

GIS ダウンロード

IBAT では、GIS ダウンロードを都度払いまたは年間定額払いで提供しています。これらのファイルは、お客様のシステムにインポートして、高度な分析を行うことができます。

- 内容 – コアデータセット（IUCN Red List, WDPA, WDKBA）または、派生データセット（STAR）から選択
- 活用法 – 特定の関心領域の空間データの完成
- 位置情報 – 100 万 km²まで

[Download example](#)

IBAT ウェブサービス (APIs)

IBAT のウェブサービス(APIs)は、現在、WDPA と WDKBA（ドキュメントは[こちら](#)）および IUCN レッドリスト（ドキュメントは[こちら](#)）を配信しています。

API の統合により、企業は IBAT から最新の生物多様性情報を自動的に取得し、社内の GIS ツールに取り込むことができます。





Get in touch with us

ibat@ibat-alliance.org
www.ibat-alliance.org



Humphead wrasse
Cheilinus undulatus
Endangered